

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001088		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス大塩		
所在地	愛知県名古屋市中川区大塩町三丁目25番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成22年11月17日	評価確定日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ごとのニーズや季節に応じた各種行事を行なっています。時には普段行けないような場所へ皆様でお出掛けをする事もあります。1ユニットのグループホームであるため、一人ひとりの想いを大切にできる家庭的な施設です。
職員は協力して、ご利用者様の変化を見逃さず、ご利用者様が日々を安心して過ごして頂ける施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニットで2階建てのホームは交通量の多い道路に面した角地にあり、集合住宅の多い線路沿いの町内に位置している。喜怒哀楽を自然の感情と捉え、職員の対応は一人ひとりを大切に支援している。自然に笑い声や笑顔が出るケアを心がけ、美味しいものを食べて、元気な時は地域に出て行こうと散歩や町内の行事に参加をして、楽しい時間を過ごしている。外出、外食の機会も多く取り入れており、入居者の楽しみになっている。同法人の事業所が近くにあり、合同輪投げ大会で汗を流したり、大正琴で腕を振るったりと交流している。地域の中でホームができる役割として、できることから「ゴミ拾い」「こども110番」を実施している。これらの実践をもとに、より地域との協力関係や連携体制を築き、地域に開かれたホームを目指して、今後の取り組みに期待される。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「一人ひとりの笑顔と想いを大切にし 地域の一員としてみんなに愛されるホームを目指す」という事業所理念のもと、その実践を目指し日々職務を遂行している。事業所理念は玄関に掲示し、共有している。</p>	<p>入居と同時に生活環境が大きく変わる中で「笑い」のある生活を送る大切さを職員皆が感じている。散歩時のゴミ拾いや町内の行事への参加など実践していることを理念とし、「一人ひとりの笑顔と想いを大切にし、地域の一員としてみんなに愛されるホームを目指す」を話し合いでつくりあげた。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域で行なわれるお祭りや敬老会などに参加させて頂き、交流を行なっている。 地域防犯パトロールのピブスを着用してホーム周辺の散歩や清掃活動も行なっている。</p>	<p>ヘルパーの実習生や中学生の福祉体験を受け入れたり、「子ども110番の家」を受託している。町内会に加入しており、回覧板で町内の敬老会、秋祭り、盆踊り、町内対抗の運動会など行事の情報を得て参加している。近所の方から、庭の果物を自由に収穫させてもらえるなどの交流もある。</p>	<p>入居者は地域の一員として町内行事に参加し、楽しむ機会を持っているが、ホームから町内へ行事案内や参加の呼びかけをするまでには至っていない。入居者や家族の意向を大切にしつつ、近所の人々と積極的に交流できる双方向の関係の構築が期待される。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方から相談があれば積極的に答えたり、実習生の受け入れも積極的に行なっている。しかし、事業所からの外部への積極的な情報発信は行えていない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、参加者から出た意見を参考にして、サービス向上に努めている</p>	<p>2カ月に1回開催しており、民生福祉会長、入居者、法人内から知見を有するものとして数名の参加がある。会議の内容はホームの現状や行事報告、ホームからの提案や相談を行っている。次回は地域包括センターの職員参加が予定されており、町内会からも参加してもらえるようお願いする考えを持っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的に区役所の保護係などを訪ね、状況を報告している。 また、市町村実施の説明会などに毎回参加して情報を得、サービス向上に繋げている。</p>	<p>市が実施する説明会に参加して情報収集をしたり、書類関係で定期的に窓口へ出かけている。運営推進会議の参加を機に協力関係の取り組みを具体的に相談する予定がある。</p>	<p>ホーム長が市区町村に出かける時に入居者本人と一緒に行って話や相談をする事で担当者との距離が近くなる。また、入居者が社会との関係を継続できる支援にも期待したい。</p>
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は18:00～翌7:00までは防犯のため施錠しているが、それ以外の時間帯では有事の際を除いて開放している。 身体拘束の廃止に関するマニュアルを、職員が閲覧出来るようにしており、身体拘束を行わないケアの実践に日々努めている。</p>	<p>玄関の施錠は防犯上夜間のみ実施している。日中は風鈴等で開閉が把握できるように工夫している。鍵をかける弊害や身体拘束排除について特別な研修を行う事はないが、職員は家庭での生活に拘束はないものとして捉えている。入居者からの「お世話になりました」「ありがとう」等の言葉で行動把握ができる関係である。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者が研修に参加し、報告書を閲覧している。そしてミーティングや日々のケア、会話の中で話し合い、虐待防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が参加した研修の報告書を閲覧しているが、勉強会は開催していない。今後は勉強会の場を設けて理解をより深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にご利用者様、ご家族様と契約書・重要事項説明書を1から全て読み上げ確認し、不安や疑問が残らないよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホーム玄関に設けて意見を汲み取れるように努めている。 また、重要事項説明書に外部の苦情報告連絡先を記載し、連絡が出来る仕組みがある。定期カンフェレンスでも話し合い、運営に反映させている。	玄関に手作りの意見箱が設置されており、誰もが要望や意見を表せる環境を提供している。面会時や電話で直接声をかけ、要望や意見を聞き、内容によっては職員間で話し合い迅速な対応を心がけている。実習生には無記名でアンケートを出してもらい運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際に、上司や会社に対する意見を書くことができ、その後の話し合いで意見・提案を話し合う機会があり、運営に反映させている。また、毎月の運営会議でも話し合い、反映に努めている。	入居者の声を大切にしたい職員の企画や意見を汲み取り、できる限り取り入れている。馴染みの関係を大切に、職員の交代がない運営を心がけている。職員はホーム長と年2回の面談があり、希望や意見を出しながら話し合う機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの整備、資格手当を支給するなど、個々の能力に応じた対応をしている。36協定も結び、残業をなるべくさせない取り組みも行なっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じ、法人内外の研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の事業者連絡会や名古屋市主催の同業種の研修に参加して交流を図っている。 また、法人内や協力法人との合同懇親会も行なわれ、意見交換をしてサービス向上に反映させている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	3ヶ月毎のケアプランに運動し、ヒアリングを行いご本人様が安心できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前のヒアリングや年1回開催の家族会などで意見を聞き、関係構築に務めている。 契約後も電話や書面連絡などで随時関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前ヒアリングやケアプラン作成におけるヒアリング・日々の様子観察や家族様との連絡を密に行い、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分で出来ることは自分で行う」を共通目標としている。食器洗いなどのホーム内作業もお手伝いをして頂き、日々の生活を皆で協力して行なっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用契約前にご家族様・ホーム、そしてご本人様の三者で協力してご本人様を支援していく旨をお伝えしている。 契約後も面会に来て頂いたり、何かあれば直にご家族様に連絡をさせて頂き、共に支援させて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様・ご家族様の了承があれば、友人・知人・親族の面会を積極的に受け入れている。	地元からの入居は少なく、馴染みの人や場所との継続は難しい状態であるが、ホームに生活が移ってから新しい関係を作っている。中には親族が近くにいることから面会を楽しみにしている方もある。話の中で思いもよらぬ場所や人との関係を支援できることがあり、張りのある生活につながっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子観察からの声かけや、毎回の職員ミーティングや日々の話し合いの中で集団支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、関係機関やご家族様から問い合わせがあった場合、個人情報保護に照らし合わせて必要な情報は提供し、関係継続に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様からの生活に対する意見があった場合(食事メニューやレクの要望など)は傾聴し、意向に沿うよう努めている。ミーティングでも職員同士で話し合う場を設け、ニーズを逃さないように努めている。	職員は日常会話で希望や思いを聴き取るようにしている。夜間帯や入浴時間のリラックスした時に、今までにない想いを聴くこともある。想いや意向を把握するだけでなく現実となるよう調べたり、検討するなど支援できることは積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用契約前にご本人様・ご家族様、その他ご本人様を支援している方からヒアリングを行い把握に努めている。 契約後も必要に応じて把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を個別記録に記入したり、職員同士で申し送りを行うことで現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やご本人様・ご家族様の意向を基に、現状に即した計画を作成している。3ヶ月に1回の見直しも行なっている。	本人や家族の希望を踏まえ介護計画を立てている。申し送りや個人記録を参考に3カ月で見直しをしている。計画作成担当者とホーム長が中心に毎月1回、会議を開催して意見やアイデア、変化等の情報交換をしている。介護計画は皆が目を通して、計画に沿った支援が行えるよう取り組んでいる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録やケアの中から、職員間で情報を交換・共有し更なるケアの向上に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間やご家族様・各種サービスと連携してご本人様のニーズに対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しており、お祭りや運動会・敬老会など地域行事やお出掛け場所などを把握し、支援に努めている。 他にも消防や警察との連携を図っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週1回、提携医院の医師による往診がある。その他にもご本人様・ご家族様の希望を第一に、かかりつけ医と連携した受診支援を行なっている。	入居時に希望に添った受診が受けられるようかかりつけ医の確認をしている。ホームの提携医は週1回の往診や随時の相談、指導など連携が図られ、適切な医療が受けられるよう支援している。また、看護師が週1回訪問し入居者の健康管理を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の様子変化については、毎週1回の訪問看護師が来所された時に相談、報告をして支援に努めている。尚緊急時は随時連絡を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム内でのご利用者様の情報を提供するなど、かかりつけ医や入院先病院の医師と連携を図っている。 また、退院後も安心して受け入れが出来るよう、互いに情報交換が出来る関係作りに努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様・ご本人様の意志を尊重しつつ、事業所で出来る事を充分説明した上で各関係機関と連携を図り、支援に努めている。	重度化時における医療サービス提供内容に関する指針を定め、入居者に家族に説明し同意書をとっている。重度化や終末期については、現在対象者がいないことから身近に感じる事が少ない。入居者の状態に変化が生じた場合は、その都度家族や本人と話し合い対応を確認している。	ホームで最期を迎えたいという希望もでてくることも含め、医療、介護の両方で支えられるよう職員とも日頃から話し合い、チームとして方針を共有し、研修への参加や勉強会等を通じて学びの機会についても今後は必要と考えられる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的には行っていないが、緊急時の対応についてはマニュアルを作成して話し合っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	区の消防署と連携し、ホーム内で避難訓練を年2回、火災と地震の避難訓練を定期的実施して、防災意識を高めている。	避難訓練を年2回実施し、入居者も一緒に参加している。実施後には反省会を行い、反省会の結果をもとに次の訓練計画を立て、訓練を実施するという流れができています。救急救命講習は受講した職員がホーム内で講師として勉強会を実施している。災害時における備蓄品は事務室に保管しており、保存期間等もチェックしている。	運営推進会議等を通じて協力を呼びかけるなど、災害時の地域の協力体制が強化されることを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く共に生活を送っているので、信頼関係が築けてくると時折、言葉遣いが雑になる時が見られるが、一人ひとりを尊重した言葉遣いを心がけている。	入居者一人ひとりの話を、職員はできるだけマンツーマンでじっくりと聴くようにし、意見や要望には応えるように心がけている。入居者同士の関係にも配慮し、職員は臨機応変に対応している。失禁時やトイレへの声かけ時には、周囲の入居者に気づかれないように対応し羞恥心に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか思いや希望を表に現せない時は、職員がゆっくりと傾聴したり問いかけたり、時には場所や時間を変えたりするなどして、ご本人様が希望を言える様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりの生活ペースを大事にし、希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高価な装飾品は禁止しているが、それ以外のご利用者様の安全を確保した上で、その人らしいおしゃれを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳は一人ひとり行なって頂き、洗い物や食事準備は出来る方と一緒にこなしている。	献立は栄養バランスに考慮して考えている。入居者も一緒に買い物や調理、下膳を行っており、それぞれに役割が分担されている。食事の時にはテレビは消して、音楽を流すことで食事に集中できるようにしている。訪問時には入居者から「食事が美味しい」という声が聞かれた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分バランスは個別記録に記入し、個々に把握出来るよう努めている。栄養バランスは1ヶ月の献立メニューを職員が事前に作成してバランスを考えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや付き添っての介助など、その方の能力に応じたケアに努めている。口腔ケアチェック表にて毎回確認している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排泄が上手く出来ない方は声かけや時間を決めて誘導を行い、失敗がないように努めている。	ケアチェック表を利用して、一人ひとりの状況を確認し必要な声かけや介助を職員は支援している。また、排泄チェック表をつけて個々のパターンを把握している。排泄の失敗にも本人のプライドを傷つけないよう職員は対応に注意している。トイレは清潔を保ち、気付いた時には都度掃除している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の健康体操や天気の良い日の散歩・その他運動を行い、水分摂取を増やすなどして取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく希望に添えるように行っているが、ご利用者様の体調や安全を第一に入浴して頂けるように支援をしている。	入居者の体調に気をつけながら、本人の希望に添うよう対応している。だいたい1日置きに入浴している人が多く、午後1時～4時の間に入浴している。少なくとも週3回は入浴してもらえるよう支援しており、入浴の際には順番を決めることで利用者同士のトラブルもなく、安心して入浴できるよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の入眠の妨げにならない程度に自由に休んでもらうよう働きかけ、個々の状態に合わせた睡眠の支援を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く処方箋にて確認し、薬の把握に努めている。 また、職員はダブルチェックや服薬介助者を決めるなどして、誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみなど、個々の生活歴を活かしてお手伝いをして頂き、日々のやりがいに繋げている。レクリエーションでも個々の特技を活かしたものを行なっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や個々の身体状態に併せて支援を行っている。 しかし、地域の人々との外出協力は地域行事関係以外は希薄である。	近くに公園もあり、散歩は毎日の日課となっている。火曜日と金曜日は食材の買い物に出かけ、職員1名に入居者2名ほどが一緒に出かけている。外出行事も多く、10月は岡崎や安城、木曾三川などに遠出している。平均しても月1回は皆で外出しており、気分転換や五感刺激の機会となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者へ譲渡の可能性があるため、個人所持は控えている。但し希望があり、その方がお金に対する理解があれば小額を所持して頂くよう支援している。 使用に関しては職員の見守りのもとで、買い物に出かけるなどの支援を行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が取り繋ぎ、ご本人様がやり取りできるよう支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた空間作りを行い、ご利用者様が季節を感じ、安心して楽しく過ごせる工夫をしている。	1階と2階に居室があり、2階は職員が目が届きにくいこともあり注意をしながらさりげなく見守っている。入居者には日中はできるだけリビングで皆と一緒に楽しく過ごしてもらえるよう声をかけている。玄関や共有部分の壁には、外出した際の写真などが数多く掲示されている。部屋は日差しがよく入り、熱帯魚の観賞は入居者の楽しみでもある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の広さの問題で、独りになる空間作りは難しい。個別のソファが置いてあり、そこで自由にくつろいで頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が馴染みのものを使用して、以前の場所と生活環境がなるべく変わらないよう工夫をしている。	入居者が今まで使ってきた物や、思いでの品、仏壇等を持ちこんでいる。室内は明るく、整理整頓も個々に応じて職員が支援している。各部屋には温湿度計を設置し、健康管理に努めている。入居者によっては、一見殺風景と感じる部屋もあるが、本人にとっては落ち着いて生活できるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の随所に手すりが付いていたり、分り易いように張り紙をして、自己にて安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名: フレンズハウス大塩

作成日: 平成22年12月20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	利用者様と市長村が直接関わる機会がほとんどない。	利用者様が直接市長村と関わる機会を設定していく。	利用者様個人の用事で区役所に出かける際は、対象の利用者様をお連れして直接の連携や関係を構築していく。	3ヶ月
2	12	ターミナルケアについて、職員間での議論がしっかりとなされていない。	ターミナルケアについて話し合うことで、職員個々でターミナルケアに対する意識を持ってもらう。	ミーティング等で議題に挙げ、話をしていく。現状最も必要とされている利用者様を例にして具体的な話し合いも可能であれば行っていきたい。	3ヶ月
3	13	災害時の訓練を地域と一緒に行っていないため、災害時の地域協力が不安がある。	災害時に地域の方との円滑な協力体制を築きあげていく。	運営推進会議で町内の災害、訓練に対する情報収集を行いホームに還元していく。また推進会議で訓練の情報も発信していき、相互協力が得られる環境を築いていく。	6ヶ月
4	2	地域で行われている行事には積極的に参加しているが、ホームで行う行事に対し、地域の方の参加がない。	地域の方とのより一層の交流機会を持つ。	地域の方にも来て頂ける行事があれば、運営推進会議等を通じて呼びかけを行っていく。	6ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。